

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第13回学術大会

開催日	令和元年7月6日(土)～7日(日)
場 所	長崎大学医学部(坂本キャンパス)記念講堂・良順会館
概 要	<p>「ジェネリック・バイオシミラー時代における最適な薬物療法:市民と産学官の連携にむけて」をテーマに開催された本学会は、ジェネリック医薬品のみならず、バイオシミラーについて市民への認知度の向上を目的として開催され、ジェネリック医薬品、バイオシミラーに関する多岐にわたる課題について、研究者、医療関係者、行政関係者、産業界の各演者から、現状の分析、課題の提示、一層の使用促進策の提案などが行われ、活発な議論の場となりました。</p> <p>当協会では、以下の内容でランチョンセミナーを共催いたしました。</p>
参加者数	約400名



ランチョンセミナー

テーマ	「シェア80%に向けての課題とポスト80%の次世代産業ビジョン」
日時	7月6日(土) 12:00 ~ 13:00
会場	第1会場(記念講堂)
座長	坂巻 弘之 先生(神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授)
演者1	田中 俊幸 (日本ジェネリック製薬協会 政策委員会実務委員長)
演者2	山崎 純 (日本ジェネリック製薬協会 政策委員会副実務委員長)
概要	<p>本セミナーにおいては、坂巻先生によるシェア80%に向けての課題のご説明に引き続き、協会演者2名により、現在作成中の次世代産業ビジョンについて説明をしました。ジェネリック医薬品を取り巻く経時的な環境の変化、2017年5月の現ビジョン公表の振り返りを行った後、作成中の次世代産業ビジョンについて「概要」と「未来年表」を用いて説明しました。「未来年表」では、今後2040年までに想定される社会・医療環境の劇的な変化をとりまとめ、具体的に“2030年のある日のできごと”も予測。そのうえで、「概要」に記載されている具体的な5つのビジョンの骨格を説明しました。</p>
聴講者	164名



坂巻 弘之 先生



田中 俊幸 実務委員長



山崎 純 副実務委員長